

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和2年度川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第7回第1層協議体兼地域ケア推進会議)	
事務局(担当課)		福祉部 介護保険課	
開催日時		令和2年9月28日(月)15:30~17:00	
開催場所		川西市役所 7階 大会議室	
出席者	委 員	小田 憲三、北村 俊雄、細見 幸己、岩井 健、江見 輝男 有田 洋子、吉川 泰光、高田 憲二、田中 公宏、片岡 大雅 元山 純一、西本 裕子、細海 里恵、貞松 喜代美	
	そ の 他		
	事 務 局	福祉部 山元部長 介護保険課 福丸課長 松永課長補佐 山本主査 川原主事 中央地域包括支援センター 貞松所長	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会 議 次 第		1. 開会 新部会員の就任にともない全会員の自己紹介 2. 報告事項 令和元年度福祉ネットワーク会議等第2層協議体の開催状況について 3. 協議事項 ボランティアポイント制度を導入することについて 4. その他 次回の開催について 5. 閉会	
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり	

審 議 経 過

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和2年度川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」第7回第1層協議体兼地域ケア推進会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長補佐の松永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、委員の皆さま方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず始めに、新型コロナウイルス感染症対策として、お席に除菌シートを置かせていただいておりますので、ご自由にご利用ください。</p> <p>また、本日の会議録を作成するため、録音させていただきますので、ご了承ください。なお、会議録の確認については、会長に一任とさせていただきます。</p> <p>ではここで、新たにお越しいただいております部会員を紹介いたします。</p> <p>川西市社会福祉協議会から北村様、川西市シルバー人材センターから吉川様、兵庫県介護支援専門員協会川西支部から片岡様にご就任いただいております。</p> <p>また、前年度まで第1層生活支援コーディネーターを務めさせていただいておりました森の退職により、今年度4月から細海が新たに務めさせていただいております。</p> <p>それでは、今年度の第1回目であり部会員の交代もでございますので、改めて部会員の皆さまからひと言ずつで結構ですので、自己紹介をお願いしたいと思います。小田部会長、細見副部会長のご挨拶の後、順にお席にマイクをお回しいたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（自己紹介順 部会長・副部会長以降、名簿順）</p> <p>ありがとうございました。それでは、これ以降の議事進行につきましては、部会長よろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>皆さんよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の出席については、委員14名のうち13名がご出席でございます。</p> <p>川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項に基づき本日の部会は成立いたしております。皆さんの活発な意見交換を是非ともよろしくお願いいたします。</p> <p>傍聴の方はおられますか。</p>
事務局	<p>本日は傍聴の方はお越しではございません。</p>
部会長	<p>では、議事に入ります前に事務局から資料の確認をお願いいたします。</p>

事務局

それでは、資料の確認をさせていただきます。まず本日の会議の次第としまして、「令和2年度川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第7回第1層協議体兼地域ケア推進会議) 次第」、「川西市介護保険運営協議会生活支援体制整備部会 部会員名簿」。

次に、当日配布資料としまして、「令和元年度福祉ネットワーク会議等第2層協議体の開催状況」と、協議内容等を書き留めていただく際、ご自由にお使いいただくように空欄の用紙をお配りしております。

次に、事前送付資料としまして、「生活支援体制整備部会(第7回第1層協議体兼地域ケア推進会議)協議事項に対する意見書」をお送りしております。

なお、本部会のみご出席の部会員には、「介護保険課が庶務を行う会議に係る会議公開運用要綱」、「介護保険課が庶務を行う会議の公開に係る傍聴要領」の2点を配布しております。皆様、資料はお揃いでしょうか。

部会長

それでは、次第の、報告事項「令和元年度 福祉ネットワーク会議等第2層協議体の開催状況について」第2層のコーディネーターよりご報告をお願いいたします。

第2SC

はい、では座ったまま失礼いたします。

では、今年度初めての方もいらっしゃるということで、まずは第2層協議体について簡単に触れさせていただきます。

第2層という言葉ですが、これは協議体を設置する上での圏域のことを指します。

川西市では、コミュニティ協議会同様の圏域で概ね小学校区ごとの14区の圏域を第2層と呼んでおります。

第2層の協議体の参加者ですが、その14区のそれぞれの圏域にお住いになられている住民の方、またその圏域で活動されている団体、その圏域内にある事業所、関わりのある多様な団体や組織がメンバーになっております。

ただそのメンバーにつきましては、その地区ごとに判断をされておりますので、地区ごとにメンバーが異なるというような状況です。

次に、第2層協議体の目的ですが、まず1つ大きな目的は、多様な団体との情報共有というところがあります。

そして、地域の福祉課題を共有し、見えてきた福祉課題に対して解決に向けた話し合いを行うということが大きな目的という事になります。

この協議体という言葉は、介護保険の平成27年度の改正の中で初めて出てきましたが、川西市では、先ほど申し上げたようなメンバーや目的の会議を、平成10年から行ってきており、それが「福祉ネットワーク会議」といわれる会議になります。

また、「福祉委員会」というのも各14圏域にあり、中には定例会議に多様な団体が参加されている地区もあり、それも第2層の協議体の機能を持つ会議だと言えます。

以上を踏まえた上で、「令和元年度福祉ネットワーク会議等第2層協議体開催状況」という資料をご覧ください。

左から地区名として14地区を、次に協議の場となっているのが、この会議の名称です。

ご覧のように福祉ネットワーク会議が中心ですが、中には違う名前の会議で、地区福祉委員会役員会が入っていますが、先ほど申しあげたような背景があるということをおさえていただければと思います。

続きまして、各小学校区で挙がっている議題ですが、添付資料の各小学校区名の横が議題ということです。

では、実際昨年度に各地区でどのようなテーマで話し合いが行われていったのか報告したいと思います。

重要事項で最も多かったテーマというのは、災害時要援護者支援、災害時の取り組みについてでした。

5地区を取り上げていますが、その中で課題になっていたのが「人」と「財源」というところでした。

まず「人」というところですが、災害時の取り組みが例えば自治会、福祉委員会、民生委員が単体の組織でできるものではございません。

それぞれの地区内の組織の連携、また協力者をいかに確保していくかというところが課題になっておりました。

そしてこちらも大事な制度になるのですが、災害時要援護者支援制度というのは、災害が起きた時には見守ってほしいという方を見守る制度で、手上げ方式の登録制になっております。

地域としましては、毎年は無理でも、何年かごとに全戸配布で周知をして希望者を募ったり、各種災害マニュアルを作成して配布したいと考えている地区も多数ありますが、なかなかそれに係る財源が確保できないというところで、これを主な議題にされている地区が複数ありました。

次に多かったテーマは人材育成の確保で、4地区がテーマにされていました。福祉委員会が中心となって様々な活動が盛んにおこなわれていますが、あまり地域住民に認知されていないということが、どこの地区も課題として出ているところです。

ですので、福祉ネットワーク会議のような場でほかの団体に福祉の活動を知ってもらい、連携を深めていくこと、また、今日のこの第1層協議体の課題にもなっておりますが、活動に対する金銭的要素のようなインセンティブが必要ではないかという議論が多く出ました。

あとは訪問型の生活支援活動について議論されている地区が2地区ありました。

訪問型の生活支援活動は、電球の交換、草刈りというような家事のおこぼれごとに対する住民同士の支えあい活動になるのですが、話し合いされていた地区2地区とも、これまでは全くの無償の支えあい活動はされていました。

今回は、例えば一回500円を、利用者の方から謝礼という形でいただき、その一部を活動者に渡す仕組みとするような新たな組織を立ち上げようという話し合いを、協議会の中でされています。

実は先月に1地区、今月にも1地区が、そういった有償のボランティア組織が立ち上げている状況です。

活動を長く定着させるためには、依頼を受け付けてコーディネートする体制づくりが必要ということで、拠点、人材、そして財源というところが課題になってくだろうと

	<p>いう話になっております。</p> <p>そのほか、幼稚園や学校の教員にも参画してもらって、こども食堂について話し合われた地区や、小学校区単位よりもっと小さな自治会ぐらいの単位での見守りや支えあいの仕組みづくりについて話し合われた地区もありました。以上です。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。非常に簡潔明瞭におっしゃっていただいたと思います。何か皆さんご感想、あるいはご質問等ありませんでしょうか。</p>
部会員	<p>社協の方では小田先生もよくご存じかと思いますが、社協の使命は小地域福祉、地域福祉の推進というところでまちづくりをおこなうことです。川西市の場合は昭和50年から続いています。</p> <p>今回介護保険制度の改正等があって、協議体、生活支援体制整備と、かなり重複する部分がありますので社協のコミュニティワーカーが生活支援コーディネーターをさせていただいていますが、支援によって地域でも先ほどご報告させていただいたような活動が進んでいっているという現状です。</p> <p>本日の議題でもありますが、人材確保育成というあたりが、これからのまちづくりをどう進めていくか、大きなキーポイントだというふうに感じている次第です。以上です。</p>
部会長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
部会員	<p>説明いただきましてありがとうございます。</p> <p>私も我々団体が有償ボランティアサービスを25年ほどやってきましたが、まだ人材確保に今も苦勞しているところでございます。どうしていくのかを市全体で話し合っていたいただくことはすごく光榮でございますし、あと、このようなボランティア活動というのは大切であります。</p> <p>そのボランティア活動がごく自然に行っていくことによって讃えられる。そういうごく自然な雰囲気づくりを、市と共に進めていきたいと思えます。</p>
部会長	<p>先ほど社会福祉協議会のネットワーク会議の報告で言われた、有償ボランティア活動に500円という具体的な額が出てきましたが、いかがですか。</p>
部会員	<p>有償とついておりますので、そこは最低賃金に関係していると思われれます。</p> <p>あとは活動するうえで、ある程度の額を必要とされる方がいらっしゃるということで、我々は1時間当たり1,500円の謝礼金を—1,500円いただいて、それに対して70%、1,050円ですね。—お支払いしているということです。</p>
部会長	<p>1,500円いただいて70%をご本人に、ほかは事務費等で、活用されているわけですね。</p> <p>こういった訳で有償とボランティアっていうのは基本的に相容れない考え方ですけ</p>

	<p>れども、それを何とか引きつけてでもやらなきゃならないという瀬戸際に、我々が直面しているわけですね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
部会員	<p>有償ボランティアの意義とといいますか、ポイント制度あるいは有償の額の対価などについて、協議事項の3のところでお話するような内容を今、お話してよろしいですか。</p>
部会長	<p>はい。</p>
部会員	<p>ボランティア活動というのは、部会長が申しあげましたように対価を求めない、ということが3原則の一つということもあるわけですが、ただ、ボランティアというのは、無償とはいうものの、周囲の人々が認められて感謝されるということは、人間としては大きな喜びがあって、それがさらなる活動への励みになるということとしますので、今のボランティアポイント制度を導入することによって、そういった動機づけ、大きな喜びが活動の励みになるという一助になることは、新たな人材確保が期待されると思いますので、積極的に検討を進められるべきだというふうに考えております。</p> <p>ただ、部会長が申しあげられましたように対価ですねーポイントをどうつけていくのかということは一非常に今後検討が必要な部分だと思っておりますが、まず検討を進めていくというふうに考えております。</p>
部会長	<p>もし、検討を進めるという中で、シルバー人材センターでも結構ですし、個人の考え方も結構ですが、これぐらいのポイントとなり、額だったら良いのではないかと—先ほど、500円とか、最低賃金を割らない程度で—という考えはありますか。</p> <p>現在、ご存じのように兵庫県も最低賃金では、確か一時間900円ぐらいだと思いますが、—899円がこの10月から1円上がって—この金額を基準に多少アップダウンしてもいいと思いますが、政権もかわり、若干変わっていくかもわかりませんが、</p> <p>ですが、最低賃金というのは法律で定められているわけで、それをどうこうすることもある一つの超えなければならないハードルであるわけです。かといって自分から志願してやるというようなスピリットを無視していいのかということもあるでしょう。それについて、何かご意見がある方はいらっしゃいますか。</p>
部会員	<p>事業所の観点としてなんです、今回のコロナ禍においてボランティア制度の導入という活発な意見をいただいたところですが、ボランティアの拡充について事業所とは切っても切れない関係であります。</p> <p>また、今、定年退職を当法人だけで60歳から65歳、65歳から70歳、70歳から75歳までと話がでている段階です。</p> <p>その中でのボランティアと職員の違いというところですね、やはり実際にボランティアとして来られている方に関しては、生きがいも含めて十分検討するべきでしょう。</p> <p>十分働ける、またその時給や対価がもらえるということに、やはり生きがいを感じ</p>

ている。そういうことと、ボランティアとの違いは何か、率直に今来られているボランティア等々にお話を聞きますと、やはり交通費とか逆に自費が発生する部分については、そこはしっかりと認めていただきたいという、そういう対価が発生すること、有償になることによって、強い責任感が生まれてくる。

逆に気楽さというのはなくなってしまうのはどうか、ということについては逆に質問返しされたこともありました。これは、一つの例です。

逆に先ほどのそういう400～500円であるとか打ち出しの仕方によっては気楽にワンコインで負担も小さくなく、認めてもらえる成果であるし、やりやすいという意見も出てくると思います。

そのきっかけをどのようにこの次の協議する事項になると思うのですが、ポイント制度というきっかけを。

部会長

ポイント制度についての考えがおありでしたらついでに言っていただいて。

部会員

正直そのポイント制度のところ、先ほど申しあげた通り、具体的な案というところに行き着かなかったというお答えを申しあげます。以上です。

部会長

他にご意見がある方はいらっしゃいますか。

部会員

ボランティアポイント、ボランティアの原則というところから無償だと思えますし、ご利用者様にお伺いすると、ボランティアって聞くと、もうお年を召された方からしたら、無料だと思われています。なので、名称を違うものにするべきだと思います。

そうでないと、ご利用者様が混乱してしまい、そもそも導入する意味が無くなってしまいかもしれません。導入に関しては、人材不足や介護保険でいわゆる公的な部分ではやっぱり賄えない部分っていうのは、どうしても生活しているとあります。

なので、大きな意味では、導入自体はいいかと思いますが、どういった内容をボランティアポイントでやってもらうのかっていう議論は進めていく必要があると思えます。皆さんのお話を聞いていると、専門職がやるべき内容、ご本人やご家族にしかできない内容、それでも困っているところに、隙間をうめる形で支援ができればいいのかなと思います。

もう一つ、ヘルパーステーション事業者でやっぱり介護保険では認められていませんが、有償でも構わないから、ヘルパーにお掃除してもらいたいという要望があり、大体相場として1時間が2,000円ぐらいという事業所が多いです。

ただ、1時間に2,000円ほど払って、掃除をしてもらうという人が出るのかなと疑問には思います。

最低賃金の部分は、やはり有償と言われますし、対価を発生させるのであれば、それを超える形のほうが望ましいかなと感じております。以上です。

部会長

大切なポイントをご指摘いただいたと思うのですが、何らかの形で、対価—つまりお金—を払うとするならば、ボランティアという言葉は、使うべきじゃないのでは。こ

部会員

れが1つ。

もう1つは、そういう制度はあってもいいかと思う。しかし、その場合の金額っていうのは、最低賃金を超える額のほうがいいのではないかな。

対人サービスの値段っていうのはそんなに安いものではないということ、私どもも心得るべきだという、このご指摘は大切だと思います。

それについていかがですか。

具体的にボランティア制度導入の関係で私も少しご意見を申しあげたいのですが、考え方として生活支援と介護予防という両面があると思います。

生活支援という場合については、ほとんどがある程度有償という地域が多いです。一部無償でしている場合もございますが、生活支援ではそういう基盤がありません。

一方で介護予防の観点から見たときに、例えば様々な地区で居場所、100歳体操教室をサポートするとか、高齢者などが通いの場として来られる場合もあります。

そういったことを総合的に考えたときに、健幸マイレージということで講演会に参加したら何ポイント、スポーツ体験教室に行ったら何ポイント、というイメージが、私にはあります。

ですから私の考え方としては、まずみんな外に出ましょう。行ったら健幸マイレージの1つの基準として何か行ったら何ポイント付けます。というのが参加者の介護予防支援につながっていきます。

また、スタッフとしての活動の方がそれなりに自分たちの時間を使ってボランティアでやっているのだから、そのスタッフ側にも何ポイントか付与します。

例えば100歳体操だったらそれをお世話する方については、1回お世話したら何ポイントという回数の積み重ねがいいのではと思います。

また、ご意見にありましたように、あくまでもボランティアであって、労働の債務ではないというのが私の考え方です。

お話があったように、そういう健幸マイレージのメニューとして1つあれば、ボランティアってこんなことがあるのだと思う、これがいいから健康になる、介護予防にも繋がるというPRにもなるので、健幸マイレージに2つほど項目を付け加えるだけで、お手軽で、新たなシステムを作らなくてもいいのではと思います。

問題は、やはり制度設計から実施までのスピードですね。3ヵ年計画を立てるわけですが、大部分は非常に難しいと思うので、スピードを持って、最終的でなくて、最低でも中間年に実施できるような形にしてもらったらどうか思っています。

それから、先ほどから話題にありますように、地域の活動というのは、ある程度川西市の場合はできているのが、生活支援と介護予防をどう維持していくかというのが、大和も含めて、どこの地域でも大きな課題になっています。

そんなときに、地域のコミュニティ組織、自治会、老人会、子ども会など様々な団体があります。

そういった団体と連携をしていくには、サポートをして頂かないと、なかなかうまくいかない。情報収集であったりとか、他団体との調整であったりとかという事を痛感

しています。現在、活動していますが、それを維持、充実していかないといけないと思っています。

また、生活支援コーディネーターが、第1層に一人、第2層に現実問題、1人しかいない。

かたや14地区で地区福祉委員会の活動をしている。その中で、7つの地域包括支援センターがあるというのは、地域包括支援センターとの連携も考えていくのであれば、各地区に生活支援コーディネーターの配置を、何とか次の3ヵ年計画では打ち出して欲しいという思いが強くなっています。

第7期の計画につきましては、第2層の協議体7つの位置付けをして、国の運営ガイドラインに沿った生活支援コーディネーターの配置も当然していただかないといけないと思いますし、それが地域の活動にもつながっていくのではないかと考えています。

それと、申し訳ないのですが、この意見書に書いていますが、この際ですから申しあげておきますが、よろしいですか。

部会長

どうぞ。

部会員

このボランティアポイント制度は、個人に対してではありますが、それとは別に、やはり活動団体グループに対する支援も必要だと思っています。

例えばですが、福祉委員会、自分のところの団体でいえば、事務局機能はかなり負担になっているわけです。

例えば地域で会議を開催しようとしたら、どんな議題をして、どんな案内をして、どんな資料を揃えてなど、はっきり言って私は、現職以上にパソコンと向き合っている状況ではありません。

そういった、事務局業務に伴う人件費の支援が必要だと思います。それと、活動グループに対する経費ですね。

例えば備品であったり、必要な事務用品であったりというようなものが一括交付金という制度の中では、まだ不十分な状況ではありますが、福祉の共有物に対する補助が必要だと思っています。

それから、今回は人材確保がテーマとなっていますが、事業を行うには、当然人が動けばその施設、一活動場所も必要になってきますし、運営のための経費、先ほども申しあげましたような財源確保も必要でありますし、情報収集能力、或いは管理、発信というように、様々な要素がありますので、そういった方向性を、今回は打ち出すべきではないかと思っています。

そういう意味では、先ほど申しあげました第2層の生活支援コーディネーターの役割は大きいと思います。

それから、話を戻してボランティア制度の関係について、制度の中身になってきますが、活動者、参加者相互にポイントを付与してはどうでしょうか。

先ほど申しあげたように、活動者に手厚く、対象者については市内在住の方で年齢制限はなしとします。

例えば、子育て世代のイベントをした時に、お母さんと子どもに対してポイントをつけることで参加者を増加させる等が考えられます。

ですが、ここで問題なのは、市外在住の活動者です。

当然地域で我々は活動しているわけですから、市外から来られて活動される人もいます。その人達に対してどのように対応していくかを検討する必要があります。

それと、ポイントの上限を設けないことについて、例えば健幸マイレージでは5,000ポイントで頭打ちですが、上限は不要だと思います。

なぜそう思うのかと言いますと、まだ十分調べていませんが、確か健幸マイレージが約6,000万円の事業費だったと思います。

そして、対象者が3,000人ぐらいで、1人あたり2万円相当です。それが全額ポイントで還元されているわけではありませんが、それだけコストがかかると考えれば、上限を設ける必要性はないと思います。

ポイントの対象活動につきましては、地域福祉活動全般であり、その登録条件は、こんな事業をやりますよというところで、登録制も必要になってくると思います。

ポイント付与については、地域活動に委託してもらい、福祉委員会であれば福祉委員会の方で、お願いしていただけますというものです。

当然、事務費的な問題がありますが、地域で活動団体に任せたらいいのではないかなということで、今回のこの計画をまとめて提出させていただきます。

部会長

ありがとうございました。

これは、健幸マイレージのようなボランティア活動と、一線画してそうになったらわかるということをおっしゃっていました。

ポイントということになれば、金銭への換算が問題になるわけですが、先ほど500円とか、最低賃金とか、それらを超えて、一般労働とほぼ同じぐらいの額を時間に応じて、支給すべきではないかということも踏まえていたかと思いますが、他にいろいろあったかと思います。他にご意見がある方はいらっしゃいますか。

部会員

この課題について、私なりに、そして老人クラブの仲間とも話してまとめてきましたが、ここに専門職の方が多数いらっしゃるために、その話が違う部分があります。

というのが、やはり一般人として私も家庭の一人の主婦として、ボランティアという言葉聞いたときに、なぜ飛び込めるか。

それは、最初に私が、無償化はやはりボランティアだと思っていました。やりやすい、一要素は心のプレゼントという感じで一相手に気軽に、「あっ〇〇さんあれしてちょうだい」「これしましょうか」と、そういう繋がりから生まれているのがいいのだと思っていました。

これは「向こう3軒は両隣」という、日本独特の生活習慣の中で生まれた生活の知恵だと思います。

それをやってきたために、ボランティアは無償という気持ちが通用しないような社会の動き、人間の心の変わりが出てきているので、人から何かをしていただいた時、頼んだときにそれを返していただいたときに、「ありがとう」という心が受けた人に

はあるはずです。

それに、いつも言葉だけだから、「これいただきます」「あげましょう」と、物をあげる、それが金銭に変わったという考え方でいくと、私はそれがポイントであればいいと思います。むしろ金銭が目の前にあるよりも、ポイントという影の形の、貯金の基になっていけばいいと思い、回答しました。

ですから、ポイント制度を取り入れていくべきだと思いました。特に若い方に必ず必要なことだと思います。生活があるし、様々なこともあるので、若いうちに蓄えて老後のために備えるという方もいらっしゃるかもしれません。ですから、ポイント制度を取り入れることは、後継者作りにも繋がるのではないかと考えています。

なぜ、効果があるのかというと、やっている人のポイントは貯まっていきます。何でもそうですが、お金などが貯まるというのは、いい感覚を持ち、生きる喜びに繋がっているような気がしますので、良いと思いました。

そして、受ける側とやってくださる側とが、対等に生まれるような気がして、もっと深いつき合いになると、仲間意識が生まれてきて、お互いに助け合うという関係性が持てる気がします。

そのためには、需要と供給のバランスが大きな課題だと思っていますし、行政と現場の間を取り持つコーディネーターの育成はとても大事だと思います。また人数もかなり必要ではないかと思っています。

さらに、有償のことを具体的に伺っていると、大変な財源が必要で、これは大変だと思い、そうしたら職員だろうがボランティアだろうが、どっちがどうかということになる話が出るのではないかと感じました。

ボランティア制度について、現時点で私は、自分の考えを書けないでここに出しました。

なぜかという、今、地域で助け合いをしている団体が生まれてきているんです。

私の地域を見てみると、ボランティアの募集をしたら、51人の申込者がありました。そしてそこで決まったことが、30分1ポイント=500円です。1時間だと、2ポイント=1,000円になります。

例えば30分で済む仕事も2人でやる場合は1,000円になります。1人に500円という形になります。そういう形のものを作っている中に、ポイント制をどのようにして導入していこうかと思っていたのです。

そして、事前送付資料を見たときに、1ポイント100円と考えたときにお金がかかってくるので、上限を決めないのは絶対いけないと思いました。1月に何ポイントまでと上限を決めて、1人の負担とするポイントは、紙でつけた方がいいと思います。

そうすることで、なるべくたくさんの方が少しずつ長期的に関われる、それがボランティアの良さだと思います。

もっと簡単にポイントが取り入れられるように、またポイントの付与方法が、今の私の中で一番大変なことだと思っています。

部会長

ありがとうございました。

有償による金銭のやりとりということよりも、ポイントというワンクッションをおいて、

<p>部会員</p>	<p>それを貯めていく。こういった手法は、老人クラブとしても許されると思うとのことです。続いてコミュニティの立場から、どうですか。</p> <p>基本的に、ボランティア自体、私は無償であると思っております。</p> <p>最近様々な形で、社会進出が進んできていますので、人材確保が非常に困難な状況であると思えます。</p> <p>ですから、こういうのを踏まえますと、ポイント制度というのは検討するに値するのではないかと思います。</p> <p>また、社会情勢から考えて、ボランティア活動を始めるきっかけだと思っております。</p> <p>それで、現在、当方のコミュニティでは、様々なボランティアをやっています。</p> <p>結局、この件に関してはポイントつけます、他のボランティアに関してはポイントはなしですという、この辺りを、例えば地域としてどうするのかということだと思います。</p> <p>この辺りをはっきりしとかなないと、結局、こちらのほうはポイントがつく、こちらではポイントがつかないということになると、地域として良い環境が生まれないのではないかと思いますという感じもいたしております。</p> <p>ですから、ポイントは良いと思えます。先ほどから言われております健幸マイレージのお話にも出て参りました。</p> <p>その辺りを、福祉活動をするうえにおいて、くどいようですが、「こちらはいいですよ」「こちらは駄目ですよ」という検討が必要になるのではないかと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>お聞きしますが、ポイント付与の有無の線引きはどの辺りですか。</p>
<p>部会員</p>	<p>そうですね。先ほどから出ていますが、人様のお世話をするわけなので、多少のことは、ポイントを付与することはいいのではないかと思いますという感じはしていますが、この辺りは、活動していくうえで、ある程度ははっきりしておかないといけません。</p> <p>とはいっても、どの辺りかと言われると非常に難しいと思えますが、結局のところ、私の意見としては、無償の方がいいと思っております。</p> <p>ただ、地域としては人員確保をはじめ、様々なことができていないものですから、このポイント制度が一つのきっかけとなって、ポイントを付与していくべき時代ではないかと思います。</p> <p>ですから、あくまでも私自身は、ボランティアするのであれば無償でして「ありがとう」という言葉で、私は十分ではないかと思っておりますが、地域ではそういうわけにもいきませんので、—いろいろな方がおられますので—その辺りの線引きといわれますと、まだ検討の段階ではないかと思っております。以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは地域包括支援センターの代表の方からお願いします。</p>
<p>部会員</p>	<p>地域包括支援センターは7包括ありますので、今回のシートを現場に密着してい</p>

る方々の中で意見をまとめたものを発表させていただきたいのですが、「ボランティア制度の導入はどうか。」ということで、部会長がおっしゃっていたのは、それに伴う課題みたいなところも一緒にということではいっしょにやりますよね。

包括としての意見は、ボランティアポイント制度の導入に関しては、皆さん賛成したうえで、何のためにするのかという意識づけが、広報の段階で必要ではないかということで、包括の中で、—もちろんその自助とか互助とか共助とかそのあたりのことも出ていますが、—先ほど他の委員もおっしゃっていたように、自立支援になるという介護予防の視点ということが、ひとつ言われています。

介護予防の視点というのは、社会との繋がり、社会活動をするというところになりますので、もしかしたら自治会活動のようなものかもしれません。

一つ意見として出ていたのは、包括には様々な事業がありますが、認知症サポーター養成講座を受講し、その後キャラバンメイトになってくださる方、SOS 訓練に出てくださる方、また、認知症カフェの運営やお手伝いされる方など、裏方や運営側、お手伝いして下さる方々に携わることが、介護予防につながるということで、ポイントになるのは良いのではないかとことや、生活支援というところで、地域でされている有償ボランティアのようなものが、専門職でなくてもいいので、お世話をするみたいな形は、ある意味資格を持った人が良いこともあります。ごみ捨てやちよつとしたお買い物とか、見守りなど、専門職で時間を決めて、はい終わりみたいな感じのものよりも、見守っていくという地域での見守りといった形のほうが向いているようなものもありますので、そういう継続的にできるものをしていいのではないかと意見がありました。そういうことをしようと思うと、課題というところになるのだと思いますが、人材確保をするには、高齢者のためだけに重点にすべきではない方が良いのではないかと思います。

対象になるのは、自分もいつかはそうかもしれないし、そのための貯金というような—ボランティア貯金みたいな言い方の—意見もありましたが、いずれは自分もお互い様の精神でやる必要があるのではないかと意見、広報的な問題とかが出てきますので、そういうことは今後の課題であるということと、後はマッチングがとて難しいと思いますので、そのあたりのコーディネートをするための仕組み作りや、受けて頂くための研修とか、あとはトラブル時、ボランティア保険が必要かどうかということですが、それらが課題にはなるのではないかと意見が出ています。

でも地域の繋がり的重要性や、専門職だけでは無理だということを、包括はひしひしと感じていますので、そういうことを乗り越えてでも、ぜひやって欲しいので賛成という意見の方が多かったです。以上です。

部会長

ありがとうございました。副部会長、いかがでしょうか。

副部会長

先ほどから意見が出ていますように、地域福祉は、地域で作り上げるものと思っています。

そのため、第2層でも人材確保が課題に挙がっていますが、地域福祉というのは、地域での認知度がものすごく低い。

ここが一番の問題になるので、地域にPRしたりしていますが、なかなか人材確保ができません。

人材でもそうですが、人材確保をするにあたって、一本釣りが多い。何かをやっているから、ボランティアに関わるというのがほとんどだから広がらなかった。

だから、先ほどもボランティアは無償と言われていましたが、やはり昔から人の繋がりがというのが一番大事なので、無償ボランティアを中心に、一本来のボランティアのあり方と思いますが—今の時代の流れもあり、自分の地域でも有償ボランティアチームを立ち上げました。

とはいっても、意外と無償の時よりも、有償の方が不思議と件数が増えているので、意外な結果が出たと思っています。

介護保険制度が変わって、要支援は地域の地域づくりでやろうということで、その辺りもボランティアがあるのですが、とりあえず有償ボランティアをやっています。うちの地域でも立ち上げました。

さきほど言いましたように、件数も増えてきています。依頼件数も増えてきています。人材については、様々な活動をしていて関わりがあるから特定の人に無理やりお願いしているというところで、なかなか人材が広がらないのが一番の問題。

先ほどから何回も言いますが、福祉という認知度が低いので、そこをなんとかできたらと思っています。

ポイント制度を導入することで、みなさんの中に、何か貯まれば楽しいという意識も生じてくると思います。送ってもらった資料を見ていると、1ポイントの金額が低いのであれば、高い金額になっているところもありますが、低い金額でもいいので貯められるという点が、ボランティア活動に参加しようという意欲につながるかもしれないので、このポイント制度は非常に良いと個人的には思っています。

第1SC

皆様のご意見をお聞きしたところ、概ねポイント制度で具体的な話を進めさせていただいても良いかと思われまますので、川西市として、どういうポイント制度を取り入れることができるのか、次回の会議までに、2、3プランを立てて皆様にご提示をさせていただいて、そのプランの中からもう一度お話し合いをしていただいて、詰めていく形が良いのではないかと考えられます。

健幸マイレージの話も出ましたが、健康政策課の方と情報共有してみまして、皆様にご報告をさせていただいて、このポイント制度と一緒にやっていけるのかどうかも含めて、話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

部会長

行政の宣伝みたいに感じます。

皆さん、2、3プランを提示するというのですが、否定するかもしれません。

私の経験を言わせていただきますと、ポイント制度というのは、いずれ破綻します。

ご存じかどうかわかりませんが、兵庫県に昔、賀川豊彦という偉い世界的な社会事業家がおられて、ノーベル文学賞の候補に挙げられた方です。

日本がアメリカに戦争負けまして、アメリカのマッカーサーがおっしゃるには、賀川

豊彦さんが首相になるなら、何も言わないよと言われたそうです。

そういったところから、神戸に1つのセツルメントが起こっておりまして、賀川記念館がボランティアの1つの拠点にもなっています。

それだけではなく、先生は協同組合—今、全国的に広まっている—をお作りになった中に、灘神戸生協というのがありまして、約30年前に、ポイント制度を実施いたしました。若い時分にボランティア活動をして、自分が準寝たきり、或いは寝たきりになった時、或いは1人暮らしでさみしい時に、若いときに貯めたポイントを使ってボランティアをやってもらうということを持ち回りでやっていくということでしたが、思いのほか人間の寿命が長くなりまして、全体的に高齢化となり、結局、使うに使用せず、或いは単純に十分やっけていても、ポイントを貯めたつもりが、足らなくなって、自腹を切る。或いは生活保護を受けながら、こちらから払ってもらうということになってしまう。

以上が兵庫県の神戸生協の例ですが、ポイント制度については、かなり気をつけないといけないということを、私どもは学習しているはず。これが一つ。

それから、先ほども申し上げましたが、ボランティアと有償というのは基本的には成り立ちません。考え方として、ボランティアというのは、昔でいう、志願兵、有志兵というような意味であります。

ですから、無料で戦争に参加する。無料で東日本大震災の真ん中の福島や陸前高田に行くというようなことが基本です。

そういうことで、先ほどおっしゃったように、ボランティアっていうのはなかなか難しい。まことにその通りであります。

例えば、交通費を出しましょうとなり、しばらくはそれでいいですが、何となく次はお弁当、或いはお弁当を出さないと少し申し訳ない。

その次には、宿泊してのボランティアってことになりまして、宿泊場所の提供。そういうようなことになって、ボランティアにふりまわされてしまい、お金がかかってしまう。ただほど高いものはないということもありまして、結局、有償ボランティアにしたために、現在の、熊本地震などでも非常に悩んでいらっしゃる。そういう教訓に我々は学ばなくてはならないと思います。

それともう一つ、陸前高田近くの石巻で行政の方と、民生委員の方、あの地区においては、区長というのがあります。

これは、民生委員より格が上なのです。民生委員法におきまして、民生委員は無償です。

だけど、区長となると行政からお金がでるようで、区長は力が強い。民生委員等の方々と、ごく近くの人々—一般市民というように川西市では呼んでいいと思うのですが—が共に肩を組んで、一緒におじいちゃんおばあちゃん、あるいは、子どもたちを救い出すように、行政、ボランティア、そして有償ボランティアやポイント制のボランティアなんか肩を組み、災害時に一人でも多く何とか命を救おうと頑張られて、何人か助け出すことができた。

以上のことから、立場を超えて同じ川西市で助け合うというような考え方があっていいのではないかと思います。

言ってみれば、これがいわゆるコミュニティケア、日本で言う地域ケア、或いは川

<p>部会員</p>	<p>西市がつくっておられる、地域ケア会議というようなものの基本的な考えではないかと、私は理解しています。</p> <p>ほかにご意見はありませんか。</p> <p>手短にいきます。さきほど先生も言うていただきました、ボランティアポイントのことがテーマですが、福祉の分野で以前から件数預託、時間預託、地域通貨、そういった助け合いの仕組みを、それまでのボランティア3原則から少し外れた形で何とか地域をまわしていこうという仕組みは、いろんな発想が全国で出ています。</p> <p>ですが、先生が先におっしゃったみたいに、それが全国に広がっているかという、そうではないですね。</p> <p>やはり様々な課題がある中で、しぼんでいって自然消滅していくというのがほとんどです。ですから、今回このボランティアポイント制度の検討というのは、私は良いとは思いますが。</p> <p>でも、本来のボランティア活動3原則、やる気・世直し・手弁当と、以前言っていたが、その原則から外れるところは当然あるので、先ほど出ましたが、名称をどうするとか、目的をもっと明確に出すとか、あと対象や財源、関係機関との連携という課題があると思います。</p> <p>ですから、今までのしぼんでいった例を参考に、川西市でどうしていけば良いかは十分検討したうえで実施して欲しいのですが、先ほどおっしゃったように、私もこの福祉ボランティアのことで、新たな仕組みをつくるっていうのは、多分失敗をすると思っています。</p> <p>そうではなくて、すでに川西市の実績のある健幸マイレージをされていますから、そこにボランティア的な要素をプラスしていただいて、福祉というのは皆さんにとって敷居が高いとか、しんどいとか、辛いとかいろんな負のイメージというのは結構ありますが、健康は皆さんにとってすごく関心の高いテーマですよ。</p> <p>外に出て行ってイベントに参加したり、体を動かしたりすることで、地域のためになる。また、自分の健康にも役立つということに、少しボランティア的な要素を加わることが、今回、検討する価値があるところかなと思っています。</p> <p>そこに、健康を目的に参加した人でも、地域の課題が見つかって、何か福祉ボランティアの方に入っているくださる方が1人でもできたら、大成功ではないかと思っています。</p> <p>ですから、その辺りを今後十分に検討していただいて、次期介護保険事業計画の方に入れ込んでいただいて、この3年間の間に、試行的な取り組みから、実行に移していただけるような、川西市が全国から注目されるような取り組みになったらいいなと思っています。以上です。</p>
<p>部会長</p>	<p>ほかに、何かありますか。</p>
<p>部会員</p>	<p>ポイント制度は結構いろんな地区でもあって、なかなかうまくいかないというのが実態としてあると思います。</p>

こちらにも今回書いてはいますが、導入事例は—どんな形で行われているか、結構ありましたが、—実際の利用率とか効果とか継続、事前資料を見てもらったら、横浜が10年以上続いている。他のところは平成30年度ぐらいから始まっているのに対して、10年以上続いているっていうのは、どういった工夫があるのか、せっかく作るのであれば、そこを参考にすることで、できれば3年後に、「そういえばそんな制度あったよね。」と言われたいようにしてもらいたいのので、評価が出ればありがたいと少し思っています。

後は、実際そのポイント制度でどんなことをしてもらおうのかっていうところですね。

ここは、次回以降の検討になるかということで、あと「お尋ね3」のところに私も少し書いていますが、介護全般や福祉全般の中で、なかなか知名度が上がりにくいというふうなところが課題だと思います。

関係者から聞くと、実は、福祉とか介護とかっていうのを、小学校や中学校に広報する機会をつくると、伝えに行った人の感覚としては、非常に手応えがあったそうです。

トライやるウィークで来る方々もおられますが、ああいう方々は、この辺りを言っているのか分かりませんが、コンビニとかお菓子屋さんとかっていうのが一番人気で、行き場がなくなった人が来る。

でも、みんなに福祉や介護のことを伝えると、「こんな良いことをしているんだ」とか、「将来、介護に携わるようなことをしてみたい」という意見が、聞こえてくる部分もあるので、そういう機会を作るというのは、結果としてこのボランティアポイント制度の担い手にもなるだろうし、地域の福祉の担い手にもなるだろうし、介護従事者の担い手にもなるのかなというところから、なかなか紙を配ってとか、福祉委員の方々にというふうにするよりも—福祉委員に入られている方とか、紙をちゃんと見る方というのは、基本的にもうすでに関心がある人なので—そうではない方々になると、いわゆる子どもの世代の時にするのがいいのかなと思います。

その一環として、結構効果があるかなと思うのが、小・中学校への認知症サポート養成講座に+αして、30分程度の時間で「介護ではこのようなことが行われていて、こういうところにやりがいを感じている人もいるよ。」と説明する時間なんかを設けてみるとか。それこそ新たにそれだけの時間を見るとなかなか大変なので、さっきのマイレージに便乗するではないですが、包括の事業に便乗するのも、一つの方法かなと思いました。すいません、長くなりました。以上です。

部会長

ほかにいかがでしょうか。

部会員

本当に皆さんがおっしゃっているように、ボランティアポイントは大賛成です。

あと、なぜこの制度を入れるのかという目的を明確にするのが課題だと思います。おそらく生活支援の部分と、介護予防の部分でないかなというところを基に、様々な対象ですとか、サービス管理をどうするかとかが決まって来るのではないかなというのがまず1つ。

<p>部会長</p>	<p>あと、やはりこのボランティアが、なかなか日本に根付いてない。これはもう日本全国的に根付かないというのがあると思います。</p> <p>アメリカにおいては、ボランティア文化というところで、ボランティアをすること自体が称えられるという文化であります。例えば大統領ですとか、ボランティアされた方に対して、表彰したりされているみたいです。</p> <p>今回はこのように制度が決まっていくでしょうが、継続していくためには、やはり人は長期に繋がり、「ありがとう」と言われると頑張れることで、市が、例えば広報とか市長がポイントのある方に表彰したりすることによって、継続性ができて、全国の中でもボランティア文化のある川西市というふうになってくるのではないかと思います。</p> <p>川西市は昭和50年代、社協と地域住民が一緒になって地域福祉の推進を行い、その結果、全国的に「川西市モデル」を広めたというのがありました。</p> <p>それが、知らない間に消えていきかけているので、なんとか頑張っておられるわけですが、これからもお願いします。</p> <p>やはり、川西市がつくるのであれば、さすが川西市といわれるような、基本的な考え方。それに便乗した、需給調整等についても、いわゆるマッチングとその方がおっしゃっていましたが、そういったものについてもポイントか、現金か、或いはその他のものかというところですが実際に汗を流してもらい、ポイント制度の方法論に至るまで、次回しっかりした案を2つ3つ、作ってください。頼みます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>第1SC</p>	<p>皆様に書いていただきました問3ですが、集めさせていただきましたので、書面にして、次回皆様にお渡ししたいと思います。</p> <p>では2、3つ案を作成しますので、次回よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>失礼いたします。</p> <p>その他のところですが、次回開催について、今回ご協議いただきまして、ボランティア制度を決めていこうということで、次には事務局のほうから2、3つ例を出し、それについてご協議いただきたいと思いますと考えております。</p> <p>日程ですが、決め打ちで大変申し訳ありませんが、11月19日木曜日、時間は同じく15時半からこちらの7階大会議室でということ考えていますが、皆様のご都合はいかがでしょうか。</p>
<p>部会員</p>	<p>この日は全体会をやられるご予定ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>その前に全体会が入るかどうかは、今のところ決まっておりません。部会のみになるケースもあります。</p> <p>候補日がもし可能であれば前日の18日水曜日でも構いません。</p>

そうでしたら、なるべくたくさんの方に参加できればいいということで、19日にさせていただきます。

場所の方が、本日はこの7階でしたが、確認したところ、11月19日は地下1階B01会議室を取っております。

また書面等でもお知らせさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。